

夢と努力の美しさ



姜 ボラム(カン ボラム)
慶州 勤花女子高 3年
優秀賞

小学の時から絵が上手だった私は、大人になったら画家になればいいのかなと漠然と思っていました。しかし、画家になるということには、何の感動もわきませんでした。私はおそらく絵が上手だからということだけで、画家にならなきゃと思ったかもしれません。

しかし、中学校の時、初めて日本の音楽に接したことがあります。その時、日本語にであってから、私の考え方は少しずつ変わりはじめました。誰かにさせられてするのではなく、日本語が好きで、上手になりたいという情熱ひとつで、日本語の本を開いた瞬間から、私の人生は大きく変わりはじめたといえます。

学校の勉強をして、残る時間には日本語の勉強に少しずつ励んできました。勉強をすればするほど言葉に含まれている日本人の心がだんだんわかってきて、日本語の魅力に引きこまれずにはいられませんでした。また、覚えた言葉が日本の音楽から流れてくるたびに、おもしろくて、うれしくてたまりませんでした。

高校に入ってから、もっと日本語を通しての文化が知りたくて、本格的に日本語のありとあらゆる言葉、つまり、日本人の心や日本の習わしなどがわかる慣用句とか、ことわざを勉強しました。でもその勉強の仕方はけっこう手間がかかるので学校の勉強といっしょに続けるのはとてもたいへんでしたが、やはり日本語が好きで途中であきらめたくはありませんでした。

その結果として私は高校2年生の時、ようやく日本語大会に出られるようになりました。その時は、大会に出られるという気持ちと、せっかく出たからには小さな賞でもいいから手に入れてみたい、そんな気持ちで緊張いっぱいでした。その心がけのためか、私は次々と賞を手に入れていくことができました。ついには、日本語英才に選抜され、合宿訓練を受けているうちに、私は人は夢を見て、その夢に向かって努力すれば、その夢は必ずかなえられるということに気づきました。

私はとくに日本の音楽が好きで5年も聞いていますが、日本の歌謡曲の歌詞は韓国のと少し違うと感じました。韓国の歌謡曲の歌詞の内容はほとんど「愛」とか「恋愛」とすれば、日本の方は「夢」、「未来」、「かなう」、「ぜったい」、「はじめよう」などのとても未来志向の言葉がよくです。日本の歌を歌うたびに、私も無意識のうちに少し前向きな考え方が持てるようになったかもしれません。

ここで私が読んだある本についてお話したいと思います。その本の題名は『だからあなたも生きれ』です。主人公は中学時代、クラスの友たちからひどくいじめられ、自殺をはかったり、風俗屋で人生をおくったりするとてもみじめな生活をします。しかし父の友人からの積極的な助けで主人公は法律の勉強をするようになります。ぜったい合格して父にゆるされたいという

気持ちでご飯を食べる時間さえも惜しむほど骨を折る努力をした結果、司法試験にどうどうと合格し、弁護士になれたのです。この本を通じて私は改めて努力の美しさに気づいてしまいました。

私には人が輝いてみえるときがあると思います。それは、自分の夢を語っているときの人です。そして、人間は夢をみればこそはじめて生きているという言葉に同感します。私にも日本語同時通訳士という大きな夢があります。その夢をかなえるため一生けんめい頑張ります。もちろん失敗するときもあると思いますが、その失敗をのり越えようとする努力が美しいのではないかと思います。みなさんの夢は何ですか？

真のボランティア活動とは



金 知萬(キム ジマン)
京畿 寿城高3年
優秀賞

みなさん、こんにちは。私は、この場をかりて、最近、いろいろと問題となっている学生ボランティア活動について話したいと思っております。

みなさんもお存知のように、韓国的高校では『実践中心の人性教育』、『地域社会への活動』という名目で学生ボランティア活動が一種の制度として位置を占めています。

この制度を導入した理由は学生自分でボランティア活動を体験する過程で、自分を見つめ、互いを思いやり、心豊かな品性を育てることでした。これは現在、関心が高まっている青少年問題とも繋がっているため、私は非常に価値のある試行だと思いました。

けれども時間が経つにつれて、この制度は元の主旨とは少し離れて学生たちに受けられてしまったのです。例えば、まず学生が先生によく聞いている「先生、これって点数と関係ありますか」とか「何時間やればいいんですか」とかの質問をあげられます。この例からみると学生にとってボランティア活動というのは他律的に仕方ないからやる、大学に入るための手段にしか考えていないということです。こういう状況で活動した学生が大人になったとしたらボランティア活動についてどう思うでしょうか。自分にとってボランティア活動というのは利益ばかり得ようとする利害打算の活動だったと話すのではないのでしょうか。

もうひとつの例は関連機関の認識と連携不足をあげられます。関連機関は学生が来ると教育的に何か役立ててもらおうのではなく、掃除やゴミ捨てなど、あまり意味のない仕事をさせることが多いということです。いくら純粋な心地を持って行っても関連機関から関心を持って活動を助けようとしなければ、これも元の目的とは遠くなるでしょう。

私はこういう問題が起きるのは、自分の意志でやる一般のボランティア活動、つまり自願奉仕と、学生ボランティア活動、ふたつの意味に対する認識の違いだと思います。自願奉仕というのは主人意識を持って何の報いも求めずに喜んでやる行為です。ですが、学生ボランティア活動というのは自願奉仕とは違って、ボランティア活動を体験することでその精神を正しく理解するのです。しかし、ほとんどは学生ボランティア活動を自願奉仕と間違っているし、自分はしたくないのに大学に入るためにはやらなければならないことと誤解しているようです。その結果、学生は被害意識や補償心理をもつようになって、ボランティア活動に対して悪い印象を受けてしまうのです。

こういう問題を解決するには、結果より過程のほうに重点を置いた認識と制度改善が要求されると思っています。学校側は各機関と相互協力して容易く実践できるいろいろな学生向けのボランティア活動をつくり、そして学生のほうはそれを純粋に受け入れてボランティア活動の精神を新たに考えなければなりません。これは学生の人性教育だけでなく社会にも役に立つことに違いありません。ですから、学生が主体になったボランティア活動において最も大事なものは自己を見つめる力と人を思いやる心を育てる、その過程に真のボランティアができると思います。ご静聴ありがとうございました。

私を変えている日本語とこれからの韓日関係

金 亨真(キム ヒョンジン)

仁川 世一高2年

優秀賞

今、韓日両国では文化交流がもっとも盛んになっていると思います。日本では焼肉をはじめとする食べ物、今、NHKで放映されている『冬のソナタ』のようなドラマなどがよく知られています。韓国でも昔から日本の漫画が青少年の間でとても人気があって、最近ではインターネットを通じて放映中のアニメもすぐに見ることができるようになりました。今日、私が皆さんにお話したいことは、このように活発な文化交流のなかで、日本の文化を学ぶうちに生活が少しずつ変わってきた私のことについて、そして、これから進むべき韓日関係についてです。

私が日本語の勉強を始めたのは小学校4年生の時でした。当時、友たちの間で人気があったNintendoのゲームボーイを買ったのですが、やはり日本のものなので、内容が全て日本語になっていたのです。その内容を理解しようと思ったのがきっかけとなって、日本語の勉強を始めたのです。

最初は新聞などに載る日本語講座から覚えました。それから図書館に行って、日本語の教材を探したりしながら過ごしているうちに、いつの間にか日本の文化に魅せられている自分

に気づきました。実は、それまでとは漠然と「先生になりたいな」と思っていただけでしたが、日本語の勉強をはじめから、それが「日本語の先生になろう」という夢に変わりました。でも、高校に入学してみたら、日本語を勉強して選べる職業の数は、それまでに知っていた会議通訳士とか、翻訳家だけではなく、まったく比べものにもならないほどのものがあったのです。それで、今は本当に自分が日本語を使って何をしたいのか、何になりたいのかは正直まだわかりません。

今は、私の高校で、日本語のクラブの1年生たちを教えています。クラブの授業は、最初には、書店に行って一番やさしい教材を選ぶことから、授業の前には文法の本を探したり、辞書まで引いて授業の準備をすることまで、ワクワクすることでした。授業の時にも、本物の先生のように、チョークで黒板に書きながら1年生たちと話すことで、先生という仕事って本当にやりがいがあるんだなって感じました。もちろん、私がこんなに1学期を楽しく過ごせたのも、1年生たちが私のいうことをよく聞いてくれて、まじめに勉強してくれたからだと思います。2学期からは「日本語能力試験」のチャレンジャーのための授業をすることになったのですが、私の実力でよくやっていけるかとても心配です。だからこそ今までと同様、これからも一生懸命努力を続けていこうという意欲でいっぱいなのです。そうすると、両国友好の架け橋として活躍できる人にもなれると思います。

韓日両国は互いの文化にだんだん慣れながら、さらに頻繁な交流が行われるようになりました。韓日の文化交流は、互いの暗い歴史の壁を打ち破れる貴重なチャンスだと思います。実際に2002年のワールドカップを通じてすでに歩み寄りがはじまっています。私も両国がひとつになって、21世紀のアジアを代表するパートナーになって行くことを心から願っています。そのためには、私たち、一人一人からはじめられることがあると思うのです。

まず、相手に対する誤った認識を改めることです。今も、韓国の一部では『日本』という国に対して否定的な思考、過去の賠償問題だけを考える人が残っています。日本でも在日韓国人に対する差別が未だに残っていると聞いたことがあります。もちろん、日本も誤った過去に対しては潔(いさぎよ)く謝って責任をとることも大事だと思いますが、互いに否定的な思考は改めるべきだと思います。

最後に、互いに真心で接する態度が必要だと思います。真心で相手を思いやることができるとき、韓日両国が21世紀を導くパートナーになれると思います。これからの私の目標も、偽りのない心を持つことができるように、真心を忘れず、韓日の国際交流の架け橋となることだということを再確認して、私の話を終わらせていただきます。

私が考える日本人



関 智勳(ミン ジフン)

慶南 鎮海高3年

奨励賞

韓国人の私が、このような言葉を投げかけるのは、少し生意気に聞こえるかも知れませんが、私が4年前、日本語の勉強を始めるようになってから、このような疑問が頭の片すみにもたげ始めました。この疑問の解答を私なりに、日本の長い歴史と地理的観点から、見いだしてみました。

まず、歴史的にみると、朝鮮半島は、徹底した学者社会であるのに比べ、日本は、武士社会であり、筆が支配する国と、刀が支配する国という、大きな違いをもっております。この大きな違いは、どのように生じたものでしょうか？

次に、私は、地理的観点から考えてみました。日本という国は、四方を海に囲まれた島国であり、また、江戸時代までは、鎖国政策を取っていたこともあり、外国への往来は皆無に等しかったと存じております。そのため、当時の日本人は、この国だけが、自分たちの世界すべてでありました。このような島国の人々の大きな特徴は「和」を重要視することです。

では、なぜ島国では、「和」を重要視するのでしょうか？島国の人々は、四方を海に囲まれていて、往来がひどく制限されているため、もし、お互いに仲良く過ごさなければ、終り無き戦いがくり広げられ、最後には、皆、滅んでしまうという恐れがあります。

広大な大陸の国では、易姓革命が可能ですが、日本の狭く、制限された土地で、このようなことが継続的に起きれば、悲惨な結果を招くことは、火をみるよりも明らかではないでしょうか？そこで、易姓革命を防ぐため、神聖で、不可侵的な存在を奉り、崇拝してきたのが、「天皇制」であり、神様信仰に匹敵する「天皇」への絶対崇拝です。この「天皇絶対崇拝」と「和文文化」により、今の今まで、フランス革命のような流血革命が、日本で起こったことはありませんでした。しかし、いくら「和」が重要だとしても、人には欲が生じてくるものです。そして、誰も、より強い力をもちたがるものです。

そこで、このような強い力を持った人々が自分勝手に力を振るえば、当然、今まで培ってきた「和」が乱れてしまいます。そのため、このように「和」を乱す者を断固たる武力で支配するために、日本では、筆よりも刀で「和」を守るため刀文化が発達したのではないのでしょうか？

すなわち、徹底した儒教精神で強者を屈服させ、君主に忠誠を尽くさせた朝鮮社会では、筆と文字を武器にする学者文化が発達した反面、日本では、武士中心の社会が形成されたわけですね。

このように閉鎖的な歴史と地理が要因となり「和思想」は人と人との調和を強調させることになり、和合と平安な社会を築いて来ました。しかし、このような社会では、弱者は強者から苦しみと締め出しを受け、社会から、のけ者にされることがあり、いわゆる「いじめ」に会いや

すいすい。しかし、いつの世の中にも、長所、欠点があり、このような「和文化」の社会では自身に許された範囲、すなわち「和」を乱さない範囲、他人に迷惑をかけない範囲内で自己形成をして行く。このような傾向が、日本人には、はっきりと表われています。

これが、日本人の代名詞である、礼儀正しい挨拶、親切さ、そして、常に笑顔で優しく話すなどと言われているゆえんではないでしょうか？

以上、私が調べた結果、日本人は、歴史的には「刀文化」、地理的には島国という条件から起因する「和文化」であり、自己の能力に合わせ自分なりの自由を享受する親切な人々だと考えられます。以上を持ちまして、私が自分なりに、見出した「日本人とは？」の弁論を終わらせていただきます。

ぼくの夢と日本語



ト 信慶(ボク シンキョン)

全南 全南高 1 年

金賞

ぼくは『光の郷』といわれる光州からやってきました。皆さんは光州についてどんなことをご存じでしょうか。5. 18 民主化運動は、良く知られています。『芸術の郷』ともいわれる光州では 2 年に 1 度、ビエンナーレが開催されています。キムチ祭りも毎年あって、たくさんの人々が光州にやってきます。去年のワールドカップで、韓国がスペインに勝って準決勝進出を果たしたのは、光州の競技場でした。今も、あの日の歓声は忘れられません。

どうですか。他にもいろいろ紹介したいのですが、きりがありません。逆に、他の地域について、ぼくは学校の授業で習ったことや家族で遊びにいったところ以外、正直いってあまり知りません。

ぼくたちは同じ韓国に住みながら、お互いに良く知っているとはいえません。その原因は、お互いの交流の少なさにあると思います。ある地方に友たちがいて交流があれば、より深く理解ができるはず。同じ国内でもこんな調子ですから、外国に関してははいわずと知れています。日本人に「光州をしていますか」と聞いても、「さあ、どこにありますか」などといわれるのが落ちではないでしょうか。

外国人に韓国や光州のことを知ってもらうためには、交流が多くなければなりません。そのために必要なのは、言葉の勉強です。ぼくにはこのことについての思い出があります。

8 年くらい前に、ぼくがソウルに住んでいた頃のことです。父の知り合いに前田さんという日本人のご夫婦がいました。前田さんの奥さんが韓国語を勉強して留学をしたのですが、そのとき奥さんは 50 才を越えていました。ぼくの両親は下宿を探してあげたり、買い物を手伝った

りました。2年間の研修を終えた奥さんは、さらに韓国文学を勉強するために、ソウルにある大学に入学しました。数年後には定年退職したご主人も趣味の陶磁器を勉強しに、韓国に留学しました。

ぼくが前田さんの奥さんに「どうして韓国語を勉強するのですか」と聞いたところ、「日本に帰って、韓国からの留学生達のお手伝いをしたいのです」と答えられました。無事卒業したお二人は今、日本に戻って実際にそういうボランティア活動をしながら、韓国人との交流を続けているそうです。

ぼくは、前田さんたちの活動は小さくても、とても意味のあることだと思います。そして、ぼくもそんな活動がしてみたくなりました。そのために、ぼくは次の二つのことをしなければならないと思っています。

第一に、自分の国や故郷について良く知っておくことです。相手に自分のことを理解してもらうためには、自分のまわりのことを良く勉強しておくことが必要です。

第二に、相手の国の言葉を勉強することです。前田さんたちのように外国語を学ぶことがきっかけとなって、人と交流したり、お互いの文化を理解したりできるからです。

ぼくが今、ここに立っているのも、正しい日本語を勉強して、韓国と日本との交流に役立ちたいと思う夢があるからです。ぼくは将来の進路を、まだはっきり決めていません。貿易や外交、今話題のIT産業など、いろいろな分野の仕事が考えられます。たとえ日本と直接関係のない仕事につくとしても、先に述べたように、ぼく自身の基礎がしっかりとしていれば、両国の交流や相互理解の役に立てる機会がきっとやってくると信じています。

偉い！ボア (BoA)



宋 叡延(ソン エヨン)
釜山 海雲台女子高3年
奨励賞

皆さんは、先日、日本のオリコンチャートで、1位になった韓国の少女歌手ボアをご存じですか。韓国人はもちろん日本人でも、だれでも知っていると思います。今、ボアは『歩く一人企業』と言われるほど、ボアの経済的、文化的な価値はほんとうに大きいと聞きました。皆さんはこのように、すごい少女をどう思いますか。

私はテレビで時々ボアを見ましたが、誇り高く思いながら、一方では、私より一歳下にもかかわらず、韓日文化交流に大きく役立つ仕事をしているのを見て、私も努力すれば、何でもできると自信ができました。ある人たちはボアが「かおがきれいで」とか「エージェンシーが良くて」とか言ってボアが成功したと話しています。でも、今のボアがいるまでは、ものすごい苦労

と、耐えない努力があったと聞きました。もちろん、はじめから才能がありましたが、自分の努力で今のボアが誕生したと思います。そして、踊りと歌だけでなく、英語と日本語の勉強も、世界の進出のために、一生懸命にしたと聞きました。私が中学校2年生の時、ボアがデビューしましたが、『13才』という年が信じられないほど優れた歌唱力と高いレベルの踊りまでできるのを見て、私もボアのファンになりました。

韓国で広い活動をしながらボアは15才の時、はじめて日本に進出しました。その時までも、日本に進出した韓国の歌手は大成功を成し遂げられなくて、ボアの日本への進出は確実な保証があるというわけではなかったです。ところが、予想以外に、日本人はボアの踊りと歌の技に魅力を感じて、いつもの笑顔とボアの熟練している日本語の話し方をみて、外国人としての異質感をこえて、ボアのファンになりました。ボアの実力を高く評価した日本人によって、ボアは日毎に人気が高くなり、現在は日本の有名な歌手のように、日本人から愛されています。

私が高校2年生の時、日本に行きましたが、その時もボアの人気を感じることができました。私がホテルでテレビをみている時、日本の広告でボアが出るのをみて、何か涙が出そうになり、テレビの中のボアが偉いと思いました。韓国でもない、他の国の日本で、最高になって活動しているのが、とても誇らしかったです。西洋のある芸能人たちも、ボアほどは有名ではなかったと言われました。そして、先日にあった韓日頂上会談の時、両国の首脳が集まった中で、ボアが招待されたと聞きました。両国の文化交流に大きな役割をしたからこそ、そのような栄光のある席にまで、招待されたんじゃないかと思いました。

今、中国でも高い人気を得はじめたボアはこれからのアメリカでの活躍も期待されると思います。ボアは幼い年にもかかわらず、自分の確実な目標を持って努力した結果、ここまで来たと思います。ボアの日本進出によって、経済的な利益だけでなく、各種コマーシャルに出演しながら韓国のイメージを商品化させて、大部分の日本人がボアを知っている事実をみると、韓国の文化使節としての役割がはっきりしていると思います。

「お金をたくさん稼ぐ」という言葉よりも「歌がうまい」という称賛が一番よいという少女ボア。私は踊りと歌がそんなに上手ではないわけですが、ほかの分野で韓国と日本の交流の発展の助けになりたいです。「偉い！ボア。ファイト！ボア。」



ニュースで見た信用不良



楊 智慧(ヤン チヘ)
大邱 景花女子高校3年
奨励賞

今日、この場で私がお話ししたいのは、「ニュースで見た信用不良」についてです。皆さんもテレビのニュースとか、新聞で信用不良に関する報道を接したことがあるでしょう。

最近、その問題に関して、自殺事件のような悲劇がひんぱんに起こっている事実も皆さんもご存知だと思います。

報道によると、6月の末、信用不良者の数は322万人で、様々な社会問題を起こしているカードの借金は2回目を記録しました。クレジットカードの使用は世界的にすでに一般化になっています。それは現金を持っていない時であっても、お金を支払うことができる長所があるからです。それだけではなく、わずらわしく多くのお金を持って歩く必要もありません。

クレジットカード会社では、カードを使った人が料金を支払うお金を持っているか、持っていないかにかかわらず、決まった期間がたてば、料金を請求するので、カードを濫用した人は、自分も知らない間に借金をいたのと同じです。これがクレジットカードに隠されている弊害だと思います。

クレジットカードによる信用不良が増えているひとつの理由に、カード会社に責任があると思います。それは、クレジットカードを何の制限もなく発給することです。その人がお金を返す十分な経済力を持っているかどうか、なによりも重要ではないでしょうか。

以前はクレジットカードを発給するためにはカード発給規定にしたがわなければならなかったのですが、自分の署名あるクレジットカードを持つのがあまり容易なことではなかったです。しかし、何年か前からは街でクレジットカードを発給することが当たり前になりました。カード会社は利益と実績のみを狙って、自制力が不足な未成年者と経済的能力のない階層にまでカードを発給しました。

私はこういうふうにあまり制限なく、クレジットカードを発給するカード会社が信用不良者の数を増やせた原因だったと思います。こんなに信用不良が増えているにもかかわらず、最近カード会社は、無利子分割払いと景品をかけた会員募集の競争が、また繰り返されているという事実が明かされました。

このようなクレジットカードの競争は経営不実をもたらすはずなので、これ以上放置してはいけません。信用不良者には個人信用回復のための教育を強化させ、カード会社はカード発給規定をきちんと守るように制裁を加えるべきだと思います。一日でも早く処置を取って、カードの借金で信用不良者が生ずることを防がなければなりません。

私の夢



李 明夏(リ ミョンハ)
ソウル 江東高3年
優秀賞

私はこの席で私の夢、すなわち、私の目標と考えを話したいと思います。
高校の3年生なら、だれでも大学について考えてみます。皆さんはなぜ大学に入るか、悩んだことがありますか？ほとんどの学生たちが大学に入ろうとする理由として「いい仕事を得るため」または「人にいい待遇を受けるため」だといっています。

しかし私が大学に入ろうとする理由は本当に単純です。それはただ、大学生の生活と大学でだけできることを経験してみたいからです。経験を通じて不確実な未来に適切に対応できるし、どんなことでも上手にできるし、生きていながらいろいろなものを手にいれることができると思うからです。また、経験によって自分の人生と未来が変わるかも知れないし、後に老けたら若い時の経験の思い出だけが残るからこそ、経験より大切なのではないと思うのです。

私はあるきっかけで「経験」をなにより重要視するようになりました。それは私が偶然に日本の音楽を聞いてから、日本の文化と日本語に興味が出て日本語の勉強を始めたことです。それで私は以前の警察官と消防官の夢を捨てて、前とは全然違う道を歩くようになりました。それでも、実は私の夢はまだ確実に決まっています。しかし、目標はあります。今は日本語を完璧にマスターして日本へ留学を行って、日本で一人暮らししながら勉強してみたいです。それでいろいろなことを経験してみたいし、友だちもたくさんつくりたいです。そのあと英語と中国語を勉強して、アメリカと中国などに行っているいろいろなことをしてみたいです。私は韓国でだけ居ながら『井の中の蛙』になりたくないのです。外に出ていろいろなことを接して私の視野を広げたいです。そしてそのなかで人ができない私だけの仕事を見つけてその仕事に頑張りたいです。途中で他の経験によって私の目標が変わるかも知れませんが。

これからの私の道は本当に寂しいし、お金も稼げないし、いろいろ大変かも知れませんが、人の立場からみたら、くだらなく見えるかもしれませんが、私はその先には必ず光があると信じています。今は自分自身でできることはほとんどないのですが、直接ぶつかってみて経験を積んでいくうちに自信も得られるし、だんだん強くなれると思います。私の不確実な未来をより確実にするためには一応、どこでも使える言語力を養うべきだと思います。これ以外にも必要なものはたくさんあると思いますが、とにかく今は、一生懸命に外国語の勉強をしたいです。そして将来のため、いまから一人でできることは一人で済ませてもっと強くなるように努力したいです。最後に、誰がなんといっても私は自分がしたいことをしながら私の目標に向かって歩いていくことを誓います。

僕の人生、僕の未来



李 儁炯(リ ジュンヒョン)

京畿 新星高 3年

最優秀賞

私は今自分にとって一番重要なこと、私の人生と未来に対して紹介しようとしているのです。私はただの普通の高校生に過ぎなかったのです。だが、一年前、高校二年生の時、日本語に出会いました。友だちからもらったアニメなのです。そのアニメが私を変えたかも知れません。

最初にはただの面白さでみることだけでした。しかし、そこに出る単語一つ一つがだんだん気になり、それが知りたくてたマンなかった私は改めて日本語勉強を始めることにしました。

当時、ろくにひらがなを覚えることさえできなかった私は、今までの自分の人生の中で一番大きな決心をしました。日本語能力試験一級を目指して日本語の勉強を独学し始めたのです。今度こそ本格的に一生懸命に的を射てみようと思いながら、多少無理なことだったけど、当たって砕けろという心構えで自分にこう言い聞かせました。『なせばなる。』結局一日10時間ぐらいの日本語勉強が能力試験一級合格という結果をもたらしました。これをきっかけに私の人生の道に大きな変化がありました。ただ平凡な日々を暮らしてみんなと同じ道を歩むことではなく、たとえ険しい道だとしても自分が好きな日本語を十分活用して、『何かやりたいことをやる』という決心をしたのです。今思えば、もしかして日本語に出会わなかったら、多分入学試験を準備している普通の受験生になっていたかも知れないのです。

私は現在日本にある立命館APUという大学に内定しております。したがって、入学試験を経たないで留学への道を選びました。だが私は自分の専攻とか、将来、何をするとかなどはまだ決めていません。具体的な目標もないくせに大学に行くことはちょっと生意気かもしれません。もちろん自分がやりたいことに必ず必要だから、その知識を得るために大学に行くのならいいでしょう。でも自分がやりたいことを探すために大学に行くのも悪くないと思います。それに、その何かの専攻を日本語で学ぶというのは大変辛いです。

しかし、辛いという字は、私が大好きな幸せという字に一番似ています。私は幸せ、幸福な人になりたいのです。私の考えでは幸福な人とは、悔いのない人生を生きてきた人ではないかと思っています。そこで私は自分の選択に後悔しないと決心しました。だから一日頑張っ自分自身に与えられた物事に充実しようと思っています。

『明日は、明日こそ！』などといいながら、この明日が私を墓場に送り ぬその日まで待っていることなんか絶対しません。私は人生は一冊の書物だと思っています。今までの私はそれを無造作にめくっていたかもしれません。しかしこれからはちゃんとそれを念入りに読もうとしています。なぜなら私は、ただ一度しかそれを読むことができないのを知っているからです。

日本語で見つけた未来への心掛け



李 智賢(リ チフォン)
ソウル 善貞高3年
奨励賞

何かを知っていくたび人たちは以前までは目に入らなかった物に気付き、知ろうともしなかったことに関心をもてるようになります。習い始めてから3年の間、日本語を習っていくたび私は大切な心かけを見つけました。今私は私が決めた未来とそれに対しての心かけについて話したいと思います。

日本語のおかげで変わってきたのはまず世界への視野です。それは私の未来図に大きな影響を与えました。日本語がネットでの活動範囲を日本まで広げるようにしてくれたおかげで私は多くの日本の方と出会いました。その人たちとの出会いから私は日本の平凡な姿を見れました。私と同じく学校に行ったり、遊びに行ったりします。JPOPに引かれて日本に関心を持った私は今まで日本の表しか見ていませんでした。でも日本語を知り人たちの言葉が聴けることによって日本の内をみれました。日本に憧れていた私はもう日本を憧れの対象としてじゃなく、友だちのように親しい存在として考えることになりました。そしてそのことはどんな国であろうとしてもきっと同じことであることに気がきました。

視野が広がったことによって私が日本語を習い続ける目的も変わりました。ただ日本のことを知りたいだけで始めたものが、今は知るだけじゃなく他の人に日本について教えてあげたいと思ったんです。そして韓国のことでも日本に伝えたいと。その思いが私の未来の緒になり、3年生になって私は大学で日本語を専攻したいと心決めました。でも、その後どうしたらいいかはまだはっきりさせていません。

その後の選択のための心かけは日本語に関する日常で見つかりました。日本製のペンを買うとき色の名前を読みながら選んだことや、歌詞の意味を知らないまま聴いていた歌の意味をわかるようになったことは日本語を知ってから得た日常の様々な変化です。そして読みたくなって探していた日本語の本がもう何年前から行き付けの書店の日本書籍コーナーに置いてあったことを知ったのも不思議な体験でした。こんなことから私は何かを知って行くことによって「これまでは見れなかったものが見える」ということを悟りました。そして「今は要らないと思われるものも未来には必要になれるから大切にしなきゃいけない。結局、今をもっと確実に生きることが未来の役に立つ。」という生き方を選ぶことになりました。

で、未来は誰も予測できないんですね。そして過去はもうやり直せないんです。だから後悔はなるべく短く、そして焦らずに今を慎重に生きること、それが今の私の未来への心かけです。何かが上手くできない時は少し休んで、ゆっくり今を楽しめながら未来に必要なになるかも知れない体験をさがしてみるのはいかがでしょうか。

機会は準備できている者に限って光を放つ



鄭承珉(チョン スンフヨン)

京畿 桂南高1年

奨励賞

皆さんもご存じのように、今韓国と日本で一番人気の高いポアのまぶしい活躍を見て「機会は準備できている者に限って光を放つ」ということについてお話ししたいと思います。

17才のポアが日本に進出して2年経った今、ポアの天をつくような高い人気はだれでも知っています。彼女の人気がこのように高くなった理由は果たして为什么呢。今年4月5日、東京代々木競技場での雨のなかのコンサートは1万5千人を超える人々が皆立って熱い歓声をあげていました。公演は胸をうたれるような感動が骨まで伝えられました。彼女のもらった成績はオリコンチャートの1位、レコード盤の販売260万枚、音盤の売り上げ1,000億ウォン以上という実に驚かざるをえないほどの大成功でした。

先を争ってマスコミでは、彼女が徹底的な企画の下でつくられた歌手だといっています。私もはじめはそうだと思っていました。しかし、今は彼女について考えは、変わりつつあります。人々は眼に見える人気だけをみています。私も人気歌手としてアイドルになった彼女が好きでした。でも、今は彼女の人気よりも生き方に興味をもっています。

ある日、彼女の出した番組ですらすら出てくる彼女の上手な日本語の実力をみて、舌を巻くほど驚きました。いくら徹底的な準備の期間があったとしても、それは彼女の努力がないとできないと思います。それで努力する彼女についてもっと知りたくなりました。彼女は小学校5年生から歌手になるためにつらい道を取り組んだのです。日本語と英語の勉強はもちろん、いろいろなハードトレーニングを受けていたのです。驚いたことに彼女自身がなによりも一生懸命トレーニングしたことです。彼女の努力はここで終わらなかったのです。つまり、日本に進出した時も、日本のMCたちがほとんど関西地方の言葉を使うことに気づいてなまりとか、発音までトレーニングしたそうです。結局、彼女の成功は、歌、ダンスだけではなく、徹底的な準備、それに自分自身の骨を折るほどの努力によって得た結果です。

ここで私の話をしようと思います。正直に言って、私は学校の勉強には向いてなかったのです。それで両親に好きな勉強をするように進められました。日頃、日本語に関心が多かった私は中学校1年生から日本語を習いはじめました。そのとき、日本語を専攻した母の影響が多かったのです。でも、時間が経つにつれて壁にぶつかることが多くなり、母との戦いの日が絶えず、喧嘩になったことも何度もあります。

母はいつも機会はいつでもくるのではなく、準備して待つことだと、好きでやる勉強だから必ずいい結果があるはずだといってくれました。皆さんは私はポアが人気歌手というより韓国と日本を結んでいる人物ではないかと思っています。これから私も真剣に勉強してポアのように韓日関係の発展のためにならない存在になるよう最善を尽くします。最後に、私に日本語だけ

ではなく、日本についてもっと深く、広く勉強させようとした母にこの場をかりて感謝の気持ちを伝えたいと思います。

私の人生を決めてくれた日本語



趙 アラ(チョ アラ)
大邱 景花女子高校3年
銅賞

私が初めて日本語に関心をもったのは、中学1年の時でした。しかし、他の人たちのように特別なきっかけがあったわけではありません。ただ日本語が習いたい、日本語に対してなんとなく魅力を感じていた。そんな理由から始めました。どんな意味かわからなくても、日本語を聞いていたらなんとなく楽しい気持ちになりましたし、すごくきれいな言葉だなという気がしました。

それから、高校に入って、第二外国語で日本語を習うようになり、もっと深く日本語を習いたいと思った私は日本語の会話教室に通うことにしました。とくに勉強に関心がなかった私は、日本語に出会ってから私の人生における一筋の光を見つけたような気がしました。それからというもの、わたしは日本語の勉強に夢中になり、ああ、私にもできることがあるんだな、そう、日本語に対してだけは誰にも負けないぞ！絶対に頑張って一番になろう！と決心しました。

他の授業の時間には、いるかいなかかわからないくらい静かな学生でしたけれども、日本語の時間だけは輝いていました。たまに先生に授業を任せてもらったりしましたが、始めのうちは今の自分の実力で先生の代りをするのはあまりにも恥ずかしくて、私には無理だといいました。しかし、先生はこんな機会はまだとない、いい経験になるだろうと励ましてくれました。日本語を通して私はたくさんのことを学び、またいい友たちをつくることができました。

高校二年生の時でした。日本人と一緒にキャンプに参加することになったのですが、そのキャンプの趣旨がまさに韓日文化交流でした。二泊三日の間、韓国人と日本人がひとつの班になり、農村でボランティアをしたり、いろいろなゲームをしたりしながら、両国の文化の差を理解し合い、国境を超えてひとつに結ばれたいい機会でした。キャンプが終わる最後の日には仲よくなった日本人の友たちとの別れがあまりにも辛くて、家に帰るまでずっと泣いたことが思い出されます。そのキャンプを通して、たくさんの日本人との良い縁に恵まれて、今でも連絡を取り合ってその縁を大事にしています。

実はこのキャンプまで、私の夢は芸能人になることでした。だれでも一度は夢見るのが芸能人ではないでしょうか？私はいつも他の人と違う道を歩みたいと思っていました。毎日くり返しの日常のなかで、他の人々が私という存在がいるということも知らないで生きていくと考

えたらため息が出ましたから。

それで歌手のオーディションを受けたり、雑誌モデルにも応募してみたりしました。まわりでは一時の夢に過ぎない、諦めたほうがいいっていいましたが、私は自分が必ず芸能人になれると信じていました。でも、日本人とのキャンプを通して私の夢は180度変わりました。もっと現実的で確実な夢をもつようになったのです。それは、『国際会議の華』国際通訳になることです。ヤンミソンという韓日国際通訳士がいますが、その方のように実力があって、カッコいい通訳士になりたいと思っています。国際通訳は日本語だけでなく、いろいろな分野に豊かな知識をもっていなければならないと聞きました。まだまだ未熟ですが、これからは日本語だけではなく他の分野にも見識を広げて、実力があって優秀な国際通訳士になりたいと思っています。ここにいらっしゃる審査委員の皆様とも7年ぐらい後には、国際会談のような大きな会議でお目にかかることがあるかもしれませんね。では、7年後、2010年にまたお会いしましょう！

私の夢



趙 イスル(チヨ イスル)
釜山 大明女子高2年
優秀賞

皆さんは幼い頃どんな夢をもっていましたか。また、今どんな夢をもっていますか。もしかしたら幼い頃の夢と今の夢は少し違っているかも知れません。しかし、夢が変わったとしてもその時に抱いていた夢自体は他の何よりも大切な宝物だと私は思います。これから、今私が抱えている大事な夢について後で変わるかも知れませんが、聞いて頂きたいと思います。

子どもの時、ほとんどの子どもたちがもちそうなどとも平凡な夢をもっていました。ピアニスト、看護婦、先生など。その時にはまだ自分の一番できることが何なのかわからなかったのでよく夢も変わったりしました。ピアノとか、美術とか、自分がしくて習い始めたこともすぐ飽きてしまったりしました。

私はこんなにたくさんの夢をもちながら中学生になりました。中学校2年のある日、友たちが学校にもってきた小さな雑誌の片隅で見つけたある日本の芸能人の写真を見て一見惚れしてしまいました。その日、家に帰ってすぐインターネットで検索してその人のホームページとネット上のファンクラブに入会しました。そこで韓国で見られるNHK衛星放送の番組にその人が出演することを知ってすごくうれしかったです。しかし、残念なことは放送をみてもその人が何を話しているのか全然わからないことでした。それで私はその人の話を理解するために日本語の勉強を始めたのです。

その時から日本語の勉強を本当に一生懸命しています。勉強をして行くうちに日本語自体

が好きになりました。その後、その芸能人に興味がなくなってからも日本語の勉強はずっと続けてきました。勉強がおもしろいと感じたのは初めてでした。ようやく私の一番できることを見つけて本当にうれしかったのです。中学校時代は完全に日本語に夢中でした。

私は大学で日本語を専攻してそれを生かせる職業に就きたくなりました。それで考えてみた結果、同時通訳士になろうと決めました。普通の通訳とか訳より勉強をもっとたくさんしなければならぬし、資格を取ることもすごく難しいといわれていますけれど、私は日本語が大好きなので一生懸命勉強する自信があります。

しかし、父は私の決心に反対しました。もともと父は私に弁護士とか検事みたいな法曹人になることを望んでいましたし、日本語をできる人が多いので日本語を専攻しても将来性がないという理由からでした。卒業後の就職の問題と大学院に行くとしてもお金と時間の無駄ばかりするかもしれないことを心配していたのです。父は人生の先輩となる自分の意見に従ったら後悔することなんかないと私を説得しました。

だけど、私の考えは変わりません。父のいうとおりに夢を諦めたらもっと後悔してしまうかも知れません。たとえ、失敗しても一度挑戦してみた方が、何もしなくて後悔するよりはいいと思います。名誉とかお金のためよりも自分が好きでやりがいのある職に就くのが一番いいと思います。私の考え方が非現実的なのかも知れませんが、私は絶対この夢を諦めません。自分と自分の夢が世の中の何よりも大切だと思うからです。

私は正直に私の考えを父に伝えました。まだまだ父は私が日本語を専攻することに対しては否定的です。でも心の中では私の夢を認めてくれていると思います。この大会の前にも父が「がんばれ！」といってくれました。その一言がとても力になりました。

今後、私の大切な夢を叶えるためにもっともっと頑張って未来に向かって一歩ずつ歩き出すつもりです。今皆さんが抱いている夢は何ですか。その大切な夢のために一緒に頑張りましょう。ありがとうございました。

情で笑って、情で泣く



崔 美蘭(チェ ミラン)
大邱 原花女子高 3 年
優秀賞

先月 30 日、最高裁判所で新しい判決がひとつ出されました。その判決の内容は「育ててもらった恩を忘れて親を見捨てる子は子ではない」というものでした。その話はこうです。韓国戦争の直後、町に捨てられた韓国とアメリカの混血児を 25 年間も真心を尽くして育てたのに、その人が恩を忘れてアメリカへ去って行ってしまったということです。私はこの判決のことを聞いて、「人間が利口だから裏切るんだ」という思いをしました。

ところで、家で飼っている犬はどうか？ 数年前、珍島から大田へ売られていった珍島犬が遠い道を走って元の飼い主を訪ねて家に戻って来たことがありました。その話はすぐ全国に知られて私たちの胸を温めた暮れました。そしてその犬はあるコンピュータ会社の広告にも現れるなど、大勢の人たちに好かれました。

また、こんな話もあります。はぐれてしまった主人を探して 21 ヶ月も迷って戻ってきた「ボリ」という名前のペットの話です。韓国の全南潭陽というところに住んでいたチョン氏は「ボリ」の種付けのために 70kmも離れたところに「ボリ」をつれて行きましたが、そこで「ボリ」が消えてしまったのです。

チョン氏は愛する犬を探そうとしましたが、失敗して家に戻りました。そしてチョン氏は職場の事情で家を引っ越しました。ところがなくなった「ボリ」が去る 8 月 5 日、1 年 9 ヶ月ぶりに以前に住んでいた家を訪ねてきたのです。その家に主人が住んでいないことがわかった「ボリ」がチョン氏の息子が通っていた小学校の校門の前で雨に降られてふるえていたということです。チョン氏の息子が学校へ行くたび、一緒に行ったりしましたが、「もしかして校門の前にいると息子が来るんじゃないかな」と思って「ボリ」は主人が現れるのを待ち焦がれていたのでしょう。

「ボリ」を見つけた町の人がチョン氏に連絡をして、犬はやがて主人と会うことができました。「うれしい」と、「どうして探せなかったの?」と、いや、「どんなに会いたかったか分かるの?」と、真っ黒な瞳で主人の顔を見つめながら夢中になってペロペロと顔をなめたり、周りを回ったり。

みなさん、考えてみてください。育てた親の恩を裏切ってアメリカへ去っていった子とはとても対照的ではありませんか？ そうです。今の社会は倫理が崩れています。ただ育てただけじゃない、血でつながっている親子の間にも道理を守らない人が多くなっています。親が子を捨て、子が親を捨てるが多くなったということです。

親に捨てられた子どもが1年に1万人にいたるといいます。母親の世話をするのが大変だといって年をとったお母さんを道に捨てた息子が拘束されたこともあります。これは人の道にもとる行為です。

私たちは「情で笑って、情で泣く」といいます。ペットの「ボリ」が主人を探した情は私たちに心暖まる美しい感動を与えてくれます。ところで、私たち人間の中には情のために涙を流す人が多いのではないですか？ 私は、どんなことがあっても倫理を破ったり破られたりして、そのために泣くことがあってはいけないと思います。



私の未来



崔 淞娥(チェ ソンア)
慶北 世和女子高3年
奨励賞

今日、皆さんにお話ししたいのは「私の未来」ということなんです。私は人生って冒険と挑戦で、それらこそ一度きりの人生をステキに過ごせる、一生の元のような存在だと思います。私の人生を変えた、最大の冒険は高校1年の冬休みの時、日本で起きました。

日本に着いた翌日、1ヶ月間勉強する日本語学校に手続きに行く途中、電車の乗り換えができなくて、ひとりで群れと離れるようになりました。初日だったので道も全然知らなかったし、日本語も下手だった私に信じられるのは私自身自身だけでした。慌てたが、すぐ「よし、やっちゃえ!」って勇気を出して一人で道を探してみようと決心しました。今考えてみるとちょっと無鉄砲な行動だったが、そのまま他の人が助けてくれるのをまっているよりはいいだろうって思ったし、自分自身を試みしてみたかったです。

下手な日本語で人に道を聞いたり、道ばたの案内図をみたりして、ようやく4時間もかかって学校を見つけました。道をさがしていたとき、私は学校では習わなかった大切な体験をしたし、少しは大人になった気もしました。その経験で、私は自分自身の身をもって体験しなければ得られるのは何もないというのを習いました。

そして、ちょっと現実的な経験もしました。みんな、未来って「肯定的に思えば明るい」といっていますが、現実はそうではありません。実は私にも明るいことだけじゃありませんでした。ただ夢を持っていれば、絶対ステキな未来が訪ねてくると甘く思っていました。でも、大きな壁がありました。夢にはなかった、現実の壁のことです。

「あの壁を越えるなんて、私にはできない」って思って、壁にぶつかるときに少しずつ夢を立て直しながら、前だけをみて走りました。何か間違ったと気づいて振りかえてみると、私の夢はそこになかったのです。初めて願ったのが何かさえ分かんなくなっていました。今は、その夢を取り戻すことが一番の夢です。できるか、できないかはまだわからないでしょう。

挑戦って、知らないところに一步足を踏むことだと思います。一步一步踏むうちにステキな未来に少しずつ近づいて行くのでしょう。これから、私の人生にはいろんな挑戦があるはずで。勝ちたり、負けたり、泣いたり、笑ったりしますよね。だから人生っておもしろいと思います。

いつも勝って、笑うだけの人生はつまらないでしょう。立ちあがれないほど大きな試練があっても、「もうダメ」って思われてもあきらめちゃいけないと思います。失敗したとしてもそれが終りではありません。あきらめたとき、その時こそ本当に負けるのです。つらいときでも、悲しいときでも、いつかはそんな痛みが強さになるんだと思って、もっと努力しましょう。努力した人がきっと成功するとは限らないんですが、成功した人はみんな努力したということを心に刻んで、今この瞬間を一生懸命に生きましょう。夢はあきらめない人のものです。

私はまだ学校を見つけた時の気持ちを覚えています。「できる」という言葉は、私を何かを失いたくない気持ちにさせます。何かって夢とか、希望とか、熱情とかのことでしょう。いつもあの時の気持ちを、今の気持ちを忘れずに、ステキな未来を迎えるように頑張ります。

私を変えてくださったオダギリさん



崔 正民(チェ ジョンミン)

京畿 富川高3年

銀賞

私は子どもの時から自分で知っていることだけが「真実」だと思いながら生きてきました。ただ、教科書に書いてあるものとか、大人が「そうだ」としていることにはウソがないと信じていました。そのような考えがだんだんと固くなって、色眼鏡をかけてみることの多い人間になってしまいました。

とくに日本に関することは、大人の偏見に私の意識が支配されていたと思っています。日本人に対して悪口を言ったり、批判したりすることが、愛国心があることだと思っていました。でも、そのような私に、真実を見る機会をくださった方がいました。その方は日本人の公務員のオダギリさんです。

オダギリさんに出会ったのは、高校に入学して、「ハナ」という交流サークルに加入してからです。「ハナ」というのは、日本や日本文化に関心をもっている韓国、富川市の学生と日本の川崎の学生との交流サークルです。韓国の交換公務員の経験があったオダギリさんは、自分には何の得もないのに、私たちの通訳をしてくださいました。

その当時の私は日本語が全然出来なかったので、日本の学生たちにどうやって話しかけようか心配をしていました。でも、オダギリさんは親切に私と日本の学生たちを、結びつけてくださいました。そのおかげで、日本の学生たちと、国籍と文化を超えた交流をすることができました。私のもっていた日本人に対する偏見がくずれはじめた瞬間でした。

さらにひとつの出来事がありました。日本の学生たちと、「ソデムン刑務所」と「ナヌメチブ」を訪問したときのことです。過去の韓日間の不幸な歴史を再確認するために訪れました。そのときオダギリさんはソデムン刑務所を、国籍にとらわれない、真の歴史的な見方を私たちに教えてくれました。日本の学生たちは、オダギリさんの話を聞いて、涙を流していました。

その姿に私は、今まで自分が韓国の歴史を正しく知るために、なんの努力をしてきたのか、という反省をさせられました。教科書で学んだ内容が何を意味しているのかを正しく判断しないで、ただ頭で覚えようとしてきた私を、本当に反省しました。本当の韓国人とは何なのかとも考えさせられました。

韓国の関係者の説明を一生懸命通訳しながら、学生たちを見つめるオダギリさんの姿は、韓国人よりも、もっと韓国の歴史を正しく知っているようにみえました。

私は、もっと広い視野を持って、この世の中を見られるようになりたいと思いました。相対的な視点をもって、多くの国の文化がみられるようになりました。日本の名前をもっているが、韓国の真実をみているオダギリさんの姿は、私を、対象を認識してから、話せる人に代えてくれました。

韓国に対する日本の態度、例えば、歴史教科書のゆがみ、韓国慰安婦の問題、大統領の訪日に合わせて通過された有事法制問題に対して、ただ韓国人であるからという理由ひとつで、ただ感情的な反応をしてしまった私の態度は、本質的な問題の解決にはならないという事実もわかるようになりました。

日本文部省のインターネットサイトを攻撃して、歴史的反感を起こしても問題の解決にはなりません。間違いは正確に指摘して、是正を要求することが、主権国家としての外交力だと思います。

大学生になったら、ただ巣立っていく卒業生ではなく、高校の後輩に何かを残せる先輩になりたいです。日本の学生たちに、正しい考えがもてるように努力したオダギリさんように、私も、韓国で、努力していきたくです。私を変えてくださったオダギリさん、本当にありがとうございます。

私の夢



黄 寿源(ファン スウオン)

大邱 聖光高3年

奨励賞

少し平凡な話かもしれませんが、私は夢という主題でみなさんに話をしたいです。私の夢は世界あちこちに行って、諸国のいろいろな人々と会える観光ガイドです。男にしては素朴な夢だと考えられる方もいらっしゃると思いますが、私は誰にでも自信を持って言います。「私は将来、観光ガイドになる」って。ほかのどんな職業より、これが自分に合うと思いますし、とくに好きな旅行ができるからです。私がこれを目指したのは、小学校の時、初めて行った日本旅行がきっかけとなりました。

毎日、友たちと遊ぶこと以外は何も知らなかった小学校5年生の時の夏休みのある日、日本に住んでいる祖父の招待を受けて、初めて海外旅行をすることになりました。

幼い時、出会った日本という先進国は、私にとってはめずらしい経験でした。空港には国際的な情緒があふれる様々な顔の色、先進国を感じさせるきれいな建物と街、そして日本人の

親切な態度など。この時から、私は日本という国にあこがれるようになりました。また、海外旅行についてよいイメージと関心をもつことになりました。

でも、もの足りない経験もありました。空港で日本語が分からず、あわてたことや単純な観光だったこともあって、日本人の生活とか文化を感じられなかったことです。そこで私は海外旅行でその国を思い存分楽しめるためには、その国の言語を理解する必要があるとしみじみと感じました。

それで、旅行から帰ってきた私は日本語の勉強を初めました。最初は基本的な会話とかあいさつなどを勉強しましたが、中学校に入るとは本格的に習うことにして、放課後には日本語学院に通いました。少しずつ勉強が進むにつれ、日本語と韓国語のあいだにはかなりの類似点が多いことが分かりました。

そして2度目の日本旅行から帰ってきた高校在学の時、私はいつの間にか日本留学と未来はきっと観光ガイドになりたいという自分を発見しました。苦難の受験生、高校3年生の夏休みを過している私は学校の補習授業の代わりに学院で英語と日本語の会話を熱心に勉強しています。

時々、街を歩いている時、外国人を見ると声をかけてみたくなります。韓国とはまったく違う生活をしながら生きてきた彼らが珍しくもみえるし、また、どんなことを考えながら生きているのか知りたいからです。私はもう19歳、休みもなく、今も机に座って夜遅くまで勉強している友たちに比べてちょっと特別な道を選んだ私をことをふりかえてみると、少し心配になる時もありますが、私がやりたい勉強をしてるし、やりたい仕事をするために努力しているから後悔はありません。まだ、ガイドになるために足りないことをもっと勉強していかなければと思います。

高校3年生に一番大事な大学入試、それからひとりで打ちかつべき大変な留學生活、でも未来にすてきな観光ガイドになっている自分のことを思いながら、一生懸命努力すれば、きっとうまくいくと思います。ありがとうございました。